

経営概要書

法人名：

株式会社 男鹿水族館

(株 5)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 芝田 昭博	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先	設立年月日	平成15年4月16日
電話番号	0185-32-2221	ウェブサイト	http://www.gao-aqua.jp/
主な出資 (出捐) 者	出資(出捐) 者名	出資(出捐) 額(千円)	出資(出捐) 比率(%)
	秋田県	51,000	51.0%
	男鹿市	31,000	31.0%
	(株)プリンスホテル	10,000	10.0%
	その他4団体	8,000	8.0%
	合計	100,000	100.0%
設立目的	魚、海獣等との触れ合いを通じた学習の機会を提供し、並びに県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図る。		
事業概要	水族館の運営		
事業に関連する法令、県計画	なし		

2 平成30年度事業実績

平成30年度は、繁忙期の曜日配列による休日数の減少や、荒天にともなう休館などにより、上期は対前年で5,776名の減となった。下期は、11月の「男鹿のナマハゲ」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことや、冬期間の降雪量が少なかったこともあり、対前年を3,623名上回る結果となった。

3月に姫路市立動物園から受け入れたホッキョクグマや誕生した2頭のゴマファザラシは、話題性もあり次年度に向けて良い材料になった。

<事業目標>

項 目	区分	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
有料入館者数(千人)	目標	220	200	175	170
	実績	163	156	152	—
売上高(千円)※業務受託収入除く。	目標	339,645	320,100	301,842	311,000
	実績	270,053	259,832	269,815	—
顧客満足度指数	目標	98	98	98	98
	実績	98	98	98	—

3 組織

①役員数(R1.7.1現在) (単位:人)

区 分	取締役		監査役		役員報酬
	H30	R1	H30	R1	
常勤	1	1			支給対象者 (H30年度) 2 人
内、県退職者					
内、県職員					
非常勤	4	4	1	1	平均年齢 68 歳
内、県退職者					
内、県職員	1	1			
計	5	5	1	1	平均報酬年額 (H30年度) 4,230 千円
内、県関係者	1	1			

②職員数(H31.4.1現在) (単位:人)

区 分	H30	R1	正職員
正職員	16	17	平均年齢 31.6 歳
内、県退職者			
出向職員			平均勤続年数 6.7 年
内、県職員			
臨時・嘱託	7	5	平均年収 (H30年度) 3,401 千円
内、県退職者			
計	23	22	
内、県関係者			

③取締役会回数

平成29年度	5	平成30年度	5
--------	---	--------	---

4 財務

①損益計算書 (単位:千円)

区 分	平成29年度	平成30年度
売上高	340,291	351,848
売上原価	68,370	75,535
売上総利益	271,921	276,313
販売費及び一般管理費	273,716	273,429
人件費	104,202	107,114
営業利益(損失)	△ 1,795	2,884
営業外収益	3,791	2,362
営業外費用	37	6
経常利益(損失)	1,959	5,240
特別利益		
特別損失		428
法人税、住民税・事業税	665	1,307
当期純利益(損失)	1,294	3,505

②貸借対照表 (単位:千円)

区 分	平成29年度	平成30年度
流動資産	242,762	252,513
固定資産	8,835	9,131
資産計	251,597	261,644
流動負債	34,513	41,054
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	34,513	41,054
資本金	100,000	100,000
利益剰余金等	117,084	120,590
純資産計	217,084	220,590
負債・純資産計	251,597	261,644

(単位:千円)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率(%)

※中小企業退職共済制度へ加入している。

<主な経営指標>

項 目	算 式	平成29年度	平成30年度	増減※
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	100.6%	101.5%	0.9
流動比率	流動資産÷流動負債×100	703.4%	615.1%	△ 88.3
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	86.3%	84.3%	△ 2.0
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

(単位:千円)

5 県の財政的関与の状況

区 分	平成29年度	平成30年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出			
補助金			
委託費			
指定管理料	80,459	82,033	男鹿水族館指定管理料
貸付金			
損失補償			
その他の財政支出(基金等)			

I 自己評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
A 無料送迎も行いながら、地域の観光振興に積極的に取り組んでいる。また、社会教育施設として学校の授業対応や、生涯学習を意識した体験型企画の充実にも取り組んでいる。	A 社員の定着及び育成の課題は、今後も確実に対応していく。特に人材の育成については、海外との連携や動物愛護団体対策など当初想定していなかった状況も加味しながら対応する。	C 利用した人の満足度は高い状況を維持しているものの計画を達成できていない。無料送迎により今まで利用できなかった世代等の利用が見受けられたため、今後も企画造成含め新規市場の開拓に積極的に取り組む。	A 累積損失の発生などもなく、財務状況は安定している。ただし、施設や設備などの経年劣化も見受けられるため、計画的な対応が必要になってくると考えている。

II 所管課評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 県関与の縮小に位置づけられている法人であるが、地元自治体や企業と連携を図り、男鹿地域の観光振興に寄与するなど、一定の公共的役割を担っている。	A 取締役会は5回開催されており法定回数を満たしている。常勤の役員及び職員がおり体制は整っている。充て職の役員は毎回取締役会に出席している。	B 有料入館者数及び売上高は目標を下回ったが、顧客満足度は高いまま維持することができている。	A 単年度の経常損益が黒字であり、累積損失もないことからA評価とする。

III 外部専門家のコメント

有料入館者数が毎年減少傾向にあり、今年度も対計画比・対前年比ともにマイナスとなった。男鹿水族館GAOの売上高も同様の傾向にある。今年度増収の要因は、道の駅おが（ガオジェラ）の売上高を21百万円計上できたことによるが、経常利益への貢献は689千円で利益目標は達成できなかった。ただ過去2期連続営業赤字を計上していたが、今年度は営業段階でも約3百万円の黒字を計上しており、当期純利益も継続して黒字を維持している。過去の利益の累積である利益剰余金は多額にあり自己資本比率も84.3%と高く、キャッシュも多額にあるため財務基盤は安定しているといえる。今後は有料入館者数の減少に歯止めをかけるような企画が必要である。

IV 委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 三セクの行動計画上は「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられているが、地元の自治体や企業と連携し、観光振興の推進を図るなど、一定の公共的役割を担っている。	A 常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。また、充て職役員は、取締役会に毎回出席している。	B 有料入館者数、売上高は目標を下回ったが、顧客満足度は目標を達成した。有料入館者数が減少傾向にあり、展示企画、営業、情報発信等の一層の強化が求められる。	A 毎年度、経常黒字を確保しており、累積損失もない。剰余金も厚く、財務基盤は安定している。

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	C	4 財務状況	A
評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた取組（概要） 利用者との会話を増やすことで、アンケートでは得られない情報を収集することに心がけている。また、近隣施設や、同業他社の動きを注視し、参考にしながらサービス向上に役立てている。 無料送迎バスについては、好意的な声も多くあり、全世代に販路を拡大するため集客効果を上げるように取り組んでいる。 教育旅行や学校教育についても、自主学習を中心に学習効果の向上を図る。 組織体制は、従業員一人ひとりの持ちうる力を発揮させ、各分野への挑戦にスピード感を持って取り組んでいる。							